

# 原発再稼働、TPP参加、消費税増税など

## 悪政の連発に抗議し、総決起を！



加賛成、原発再稼働容認では暮らしを良くする方向は見えてこない。私たちの要求を精一杯示して闘っていかう」とのべました。

私も日本共産党上越地区委員会を代表して挨拶させていただきました。

私は、先に実施された市議選の最中に、市民のみなさんからお寄

せいでない、「TPP参加を許してはならない」「介護保険料、下げてほしい」などといった声を紹介、選挙結果は、「いのちと暮らしにかかわる悪政への怒りの爆発だ」「このメーデー集会を国の悪政の連発に抗議し、総決起する場にしよう」と訴えました。

第83回メーデー上越集会が5月1日、雁木通りプラザで行われ、100人近い人たちが消費税の増税やTPP参加に反対し、賃上げと安定した雇用の実現などを求めた宣言を採択しました。また、集会後、高田の本町通りなどをデモ行進しました。

集会では、上越地区メーデー実行委員会の布施委員長（上越地区労連代表）が主催者を代表して挨拶、「昨年の3・11以来、日本の政治の形が変わろうとしているが、食料もエネルギーも依然としてアメリカの手の下にある。TPP参

上越市議会党会派別議員構成			
党会派名	人数	構成メンバー	役員
創風	10	武藤 正信 江口 修一 宮崎 政国 渡辺 隆 鴨井 光夫 大島 洋一 瀬下 半治 内山 米六 飯塚 義隆 瀧澤 逸男	代表 武藤 正信 副代表 江口 修一 幹事長 宮崎 政国 事務局長 渡辺 隆
新風	8	佐藤 敏 塚田 隆敏 笹川 栄一 山崎 一勇 草間 敏幸 波多野一夫 滝沢 一成 田中 聡	代表 佐藤 敏
市民クラブ	4	柳沢 周治 近藤 彰治 小林 和孝 本城 文夫	代表 柳沢 周治 副代表 近藤 彰治 会計 小林 和孝
日本共産党議員団	3	橋爪 法一 上野 公悦 平良木 哲也	団長 橋爪 法一 幹事長 上野 公悦 会計 平良木 哲也
公明党	2	杉田 勝典 上松 和子	代表 杉田 勝典 事務局長 上松 和子
会派に属さない議員	5	石平 春彦 永島 義雄 中川 幹太 櫻庭 節子 石田 裕一	

### 議長・副議長などの人事は議会の民主的運営を貫く人を！

市議選後の注目点のひとつは議長などの議会人事をどうするかです。これまでの人事では議会の会派の大きいところから議長・副議長を出すケースが何度もありました。大事なことは32人の議員をしっかりとまとめ、議会の力を最大限発揮できるように、民主的な運営を貫くことのできる人を会派の違いを超えて選ぶことです。私たちの議員団では、この点を重視し、柔軟に対応していきたいと考えています。

1日夕方までの届けによると、新議会の最大会派はこれまで2番目だった「創風」（10人）で、これまで最大会派だった「新政」（8人）と入れ替わりました。これまであった「市政みらい」と「市民ネット改革」はなくなり、党・会派は「創風」、「新政」、「市民クラブ」（4人）、「日本共産党議員団」（3人）、「公明党」（2人）の5つになりました。会派に属さない議員は5人となっています。



大島区の秋葉神社提灯行列を観てきました。とても神秘的で魅力十分でした。

# 春よ来い 第二〇一回 桜散る日に

人の心というのは突然揺さぶられたときほど大きく振れるのでしょうか。先日執り行われた、同級生のお母さん、ユキコさんの葬儀の時がそうでした。川崎市在住のレイコさんの思いがけない「お別れの言葉」に何人も参列者が涙を流したのです。

葬儀は午前一〇時に始まりました。参列者はユキコさんの親族、近所の人たちなど約三〇人。居間と座敷を区切る戸を外してつくられた細長い空間でお経が読まれ、焼香などが終わって、あとは喪主の挨拶と想っていた時でした。司会者から、レイコさんが「お別れの言葉」を読まれるという案内があつて、「えっ、どんなことを話されるのだろう」みんながそう思い、注目しました。

棺の前に立ったレイコさんは静かに読み始めました。「お帰りなさい。帰って来てホッとされたことでしょう。今年の冬の厳しい中、よく頑張りましたね」やつと聞こえるほどの小さな、やさしい声でした。そして、次の言葉からです、亡くなったユキコさんの心の中にまっすぐに入り込んでいったのは……。

「柿崎病院のベッドの中でかちやは何を思い、何を考えていらしたの？ きっと雪のことを心配していらしたのでしょう。息子がひとりで心細くはないだろうか。毎日、雪掘りで大変だろうな。ちゃんと食事をしてるだろうか」。ユキコさんが入院されてからの六カ月というものは、ほとんどが冬、しかも豪雪でした。その中で、家にひとり残された息子さんのことをずーっと考えていた。これは誰もがそう思っていたことではありましたが。でも、みんなの前で改めて示されたことでユキコさんの想いを強く感じる事ができました。

「お別れの言葉」は続きます。「私は、かちやが何を考えていらしたか、わかる気がするんです。いろんな方たちに心配してもらい、支えてもらっていることもよくわかっていました。そして、そのことをありがたいことだと感謝していらつしやいました。そのなかで一番（感謝されていたの）は地元集落のみなさんのことでした」。「入院される前、だんだん体が思うようにならなくなってきた頃、私が訪ねるとポツポツと話してくださいっていました。山も畑も集落のみなさんも、みんなどこよりも好きだと話していらつしやいました」

わずか八軒の集落に住む人たちへの感謝の言葉は、ユキコさんからただけではなく、「お別れの言葉」を読んでレイコさん自身の言葉でもあると思いました。レイコさんの実家はユキコさんの家のすぐそばにあります。実家でひとり暮らしている弟さんのことが心配で月に一回は訪ねています。年に数回私のところに配達されてくるレイコさんからの葉書には、いつもふるさとを訪ねた時のことがつづられ、自分で撮影した風景や野の花の写真が貼られていて、故郷への感謝の想いがあふれていました。

レイコさんは「お別れの言葉」の最後の部分で再びユキコさんの息子さんのことについてふれました。「心配しないでください。この冬、息子さんはいろんな方々に支えてもらい、かちやのことを毎日まいにち思い、がんばり抜きました。これからひとりになっても生きることから逃げずに、あきらめずに生きていけると思います」と。

直後の喪主の挨拶。ユキコさんの息子さんは、目に涙をいっぱい溜めて精いっぱい挨拶をしました。「みなさん、お忙しいなか、ありがとうございます。胸が熱くなって窓の外に目を向けると、桜の花ががひらひらと舞い降りていました」。

## 山も里も桜、さくら、さくら



写真は左上から安塚区小黒川沿いの桜並木、吉川区尾神のしだれ桜、浦川原区中猪子田のふるさと公園の桜。

4月29日、市内の中山間地域では各地で桜を活用したイベントが賑やかに行われました。

このうち、浦川原区中猪子田のふるさと公園では、地元の「桜を楽しむ会」が満開の桜並木の下で、3回目の桜まつりを実施。地元内外から集まった人たちが歌謡ショー、もちつき、踊り、琴の演奏、カラオケなどを楽しみました。

吉川区尾神では、吉川観光協会が3回目のしだれ桜まつりを行いました。桜は散っていましたが、よさこいソーラン踊り、吟詠の他、今回初の野点（のだて）もあって、午前から500人ほどの人たちが訪れました。

